

平成 21 年 6 月 12 日現在

研究種目： 若手研究 (B)

研究期間：2007 ~ 2008

課題番号：19720217

研究課題名 (和文)：戦時期から復興期にかけての日本の大都市圏の変化に関する研究

研究課題名 (英文)：Changes in Japanese Metropolitan Areas in the Period Spanning the Second World War and Post-War Reconstruction

研究代表者：谷 謙二 (TANI KENJI)

埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：40323381

研究成果の概要：

戦時期から復興期にかけての大都市圏の変化を通勤流動や人口分布、都市計画の観点から検討し、1930 年から 55 年の間に各大都市圏の通勤圏が大きく拡大したこと、人口分布が大きく変化したことなどを明らかにした。また、関係する時期の地形図を収集し、過去の市区町村のベクトル地図データを整備し、地形図を時系列的に閲覧するソフト「時系列地形図閲覧ソフト『今昔マップ 2』」を、インターネットを通じて一般に公開した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,300,000	0	1,300,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,000,000	210,000	2,210,000

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：

キーワード：大都市圏、通勤流動、人口、都市計画、戦時期

1. 研究開始当初の背景

戦時期から復興期にかけての大都市圏の変化については、研究の空白が存在しており、その時期の重要性を明らかにする必要があった。

2. 研究の目的

戦時期から復興期にかけての東京・大阪・名古屋の三大都市圏において、通勤流動や人口分布、都市計画などそれぞれどのように変化したかを明らかにする。

3. 研究の方法

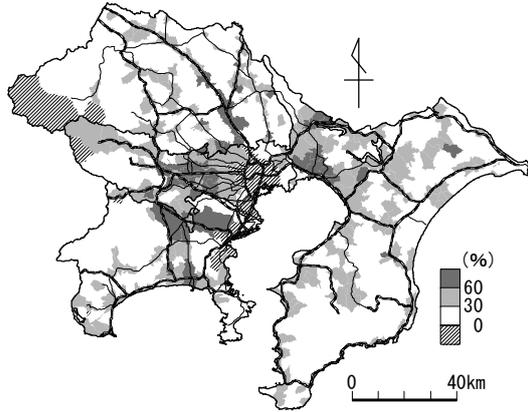
過去の統計データや地図等から、実証的に変化を明らかにした。また土地台帳や過去の新聞記事も資料として使用した。

4. 研究成果

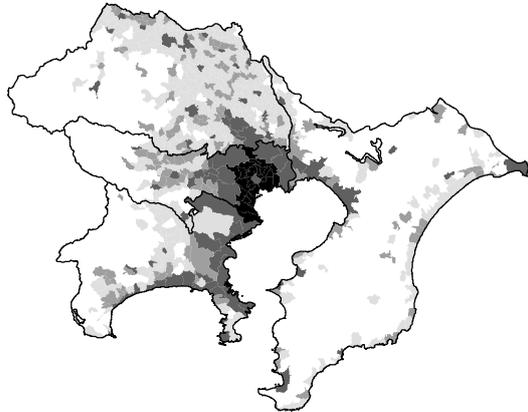
(1) 人口分布の変化

疎開による郊外での人口増加が顕著に見

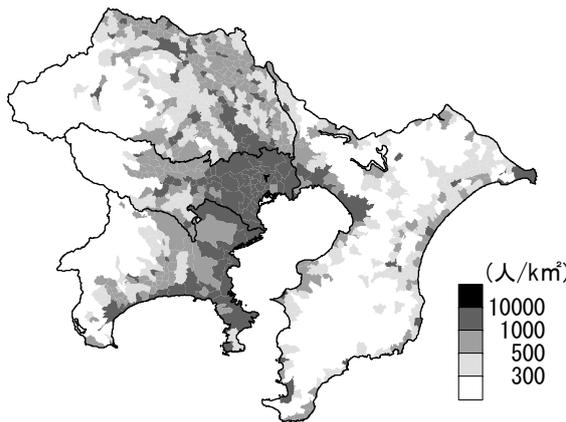
られ、東京都区部の人口が戦前並に回復した1955年には、郊外の人口は戦前の人口を大きく上回っていた。



1940年から50年にかけての人口増加率



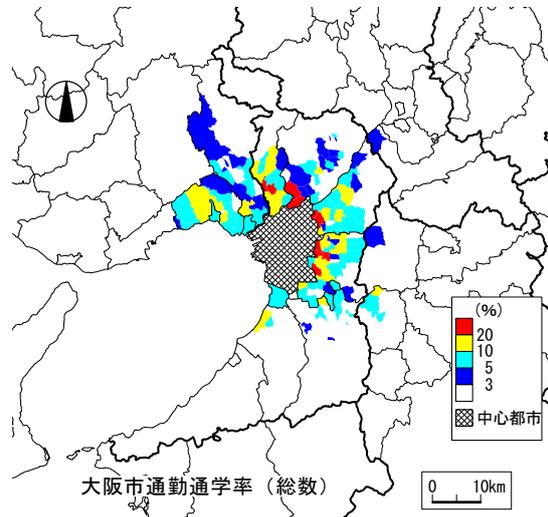
1940年における南関東における人口密度



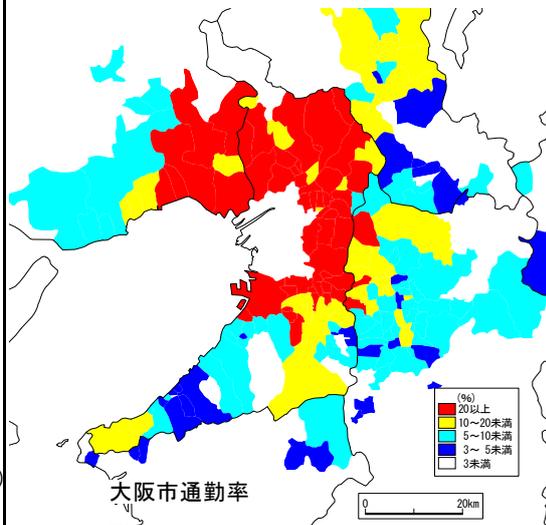
1945年における南関東における人口密度

(2) 通勤・通学圏の変化

1930年と1955年の国勢調査による東京都区部、大阪市、名古屋市の各中心市への通勤圏（1930年は通勤・通学圏）を比較した。その結果、1930年から55年にかけての顕著な拡大が認められた。



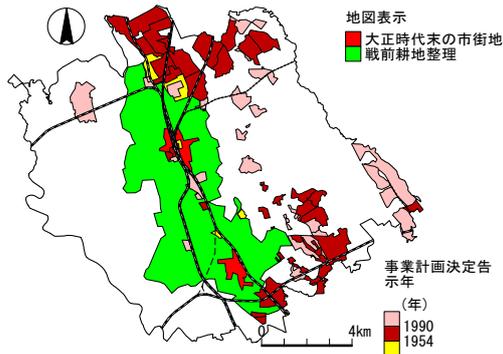
1930年の大阪市への通勤・通学率



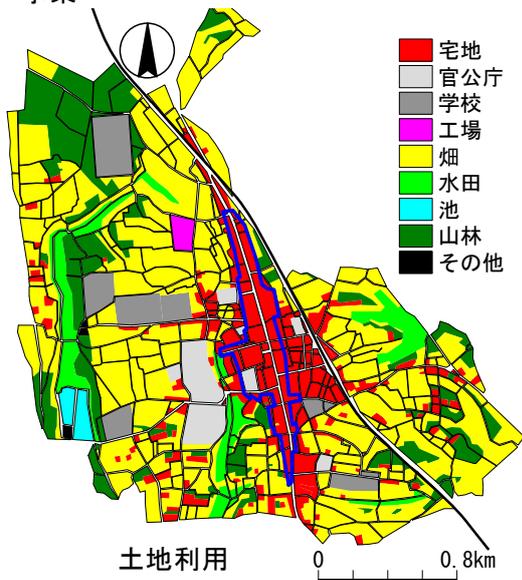
1955年の大阪市への通勤率

(3) 都市計画の変化

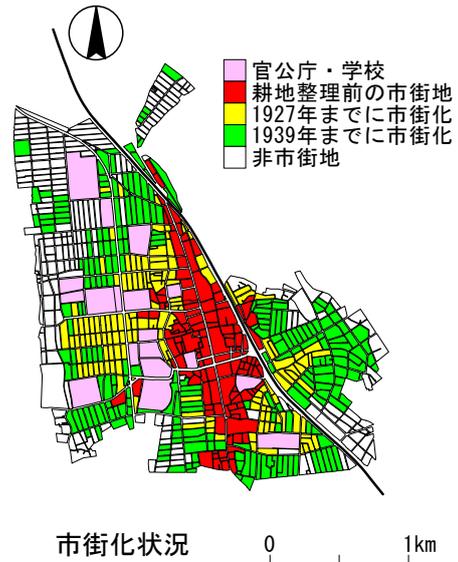
戦前の宅地開発目的の耕地整理事業の経過について、浦和耕地組合を事例に明らかにした。浦和耕地整理組合は1922年に認可され、周辺の宅地開発目的の耕地整理事業の先駆けとなった。耕地整理地区は現在でも優良な住宅地となっている。耕地整理後の市街化状況では、かなり早期に市街化が進んだことが分かる。



さいたま市における耕地整理・土地区画整理事業



浦和耕地整理前の土地利用



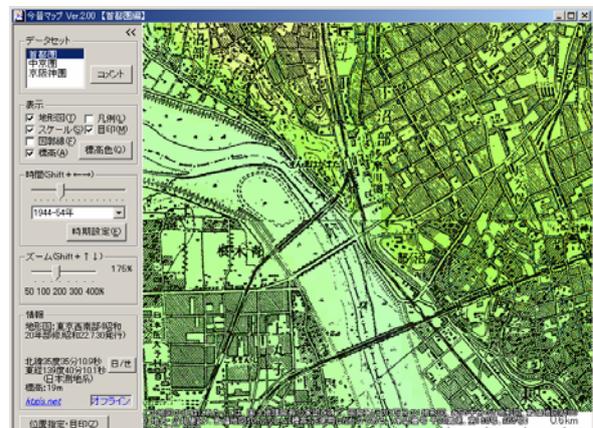
浦和耕地整理後の市街化状況

(4) 土地所有の変化

浦和耕地整理組合の地区内では、戦前に借地上の戸建住宅が多数建設された。これが、戦後の財産税により、大地主が土地を売却または物納することで、居住者が土地を所有するように変化したことを明らかにした。

(5) 地形図閲覧ソフトの開発

研究に使用するために作成した「時系列地形図閲覧ソフト『今昔マップ2』」を公開した。



ソフトの操作画面

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①谷謙二、1920年から2005年にかけての都道府県ごとの年齢構造の変化とその類型化—コーホートごとの人口分布変動—、埼玉大学教育学部地理学研究報告、査読無、28、2008、1-24

②谷謙二、時系列地形図閲覧ソフト『今昔マップ2』(首都圏編・中京圏編・京阪神圏編)解説、埼玉大学教育学部地理学研究報告、査読無、28、2008、45-70

③谷謙二、人口移動と通勤流動から見た三大都市圏の変化—大正期から現在まで—、日本都市社会学年報、査読無、25、2007、25-36

[学会発表] (計2件)

①谷謙二、時系列地形図閲覧ソフト『今昔マップ2』(首都圏編・中京圏編・京阪神圏編)の開発、人文地理学会、2008年11月9日、筑波大学

②Kenji TANI、Transformation of Tokyo Metropolitan Maps since 1910、Historical Maps and GIS、2007年8月27日、名古屋大学

[図書] (計1件)

①谷謙二、新泉社、森田武教授退官記念論文集「近世・近代日本社会の展開と社会諸科学の現在」、2007、525-543

[その他]

ソフトウェア「時系列地形図閲覧ソフト『今昔マップ2』」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷 謙二(TANI KENJI)

埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：40323381

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者
なし